

この度、「アジア・言論研究会」の会長に就任しました浅野健一と申します。私は 22 年間、共同通信（千葉支局・社会部記者、ジャカルタ支局長などを歴任）に勤めた後、1994 年から同志社大学の大学院メディア学専攻博士後期課程と社会学部メディア学科の教授として、新聞学・ジャーナリズム論を教えてきましたアカデミック・ジャーナリストです。（詳しくは [http://blog.livedoor.jp/asano\\_kenichi/archives/cat\\_53898.html](http://blog.livedoor.jp/asano_kenichi/archives/cat_53898.html) を参照されたい。）

日本にはジャーナリズム研究を行う団体として日本マス・コミュニケーション学会（旧・日本新聞学会）など複数の団体がありますが、私は、人民の側に立つ学会とは言えないと考えています。以前の日本新聞学会では国家機密法案に反対するなどの行動を起こしていましたが、現在の学会は特定秘密保護法、戦争法、共謀罪に反対声明も出していません。安倍晋三政権による言論弾圧が強まる中、言論の自由を擁護し、ジャーナリズムを創成する必要があります。

本研究会の特徴は、言語学や日本語教育などの分野を取り込んだ形で研究会が立ち上がったことです。都留文科大学の早野慎吾教授（社会言語学）や東京福祉大学の松井洋子講師（日本語教育）も発起人に加わり、本研究会を発足することになりました。

研究会の名称に「アジア」と「言論」を選んだのは、非戦平和なアジアを作り出すためにこの地域において言論の自由が保障されなければならないと考えたからです。そこで、アジアの漢字圏で共通に使われている「言論」という用語を選びました。韓国の多くの大学では、かつて新聞学科と呼ばれていた学科が言論弘報学科と名称を変えています。英語では journalism and communication studies です。中国の大学では新聞広播学科、新聞放送学科と呼ぶようです。

本研究会では、言論に関する研究・教育する人たちが意見・情報を交換するとともに言論の研究・教育の発展に寄与することを目的としています。言論研究には新聞学、言語学、教育学、社会学、法学など、言語表現に関わる研究分野を広く含むこととします。

ウェブを使って、研究発表を行い、研究誌（ウェブジャーナル）を発行します。現代の直面する課題をテーマにした講演会、シンポジウムなども開催して、言論界の改革に影響を与える事業を展開したいと考えています。

日本とアジアの言論状況を憂い、改革の志のある同志の参加を求めます。いわゆる学者だけの団体ではありません。言論に関心のある人なら、誰でも参加できます。人民と研究者が協働して、言論で民主主義を実現するための研究会を作っていきたいと考えています。

アジア・言論研究会 会長 浅野健一